

令和3年度(本予算)

再エネの最大限の導入の計画づくり支援事業

第二次公募 審査委員会の意見を踏まえた総評

■第1号事業の1：2050年までの脱炭素社会を見据えて再生可能エネルギーの導入目標を策定する事業

概ね、評価は以下の通り。

- ・全体を通して2050年までの脱炭素社会を見据えた適切な再エネ導入目標となっており、さらに地域が求めている将来ビジョンと再エネ導入目標とのつながりが明確、かつ確実性が高い。

■第1号事業の2：円滑な再生可能エネルギー導入のための促進エリア設置等に向けたゾーニング等の合意形成を図る事業

概ね、評価は以下の通り。

- ・ゾーニング公表を前提としており、地域の自然的・経済的・社会的条件についての認識も妥当、適切であり、関係機関等との調整も可能。

なお、事業の実施に当たっては、その実施方法についてより効率化を図るとともに、事業が目指す導入目標をより明確にすること。

■その他

以下のとおりの意見があった。

- ・調査の実施に当たっては、費用対効果に十分留意するとともに、複数年度事業においては、適切な進捗管理を行いつつ実施すること。
- ・地域経済循環分析の結果を踏まえて、地域の環境・課題等を明確に示したものの評価は高くなること。

- ・事業計画内容と経費の関係をより明確にすること。
- ・なお、本事業を通じて、地域における再エネ導入ビジョンと目標策定の促進を期待したい。

以上